

10月10日(土)9時30分第1限開始のチャイム、この日は講義教室に直接集合し、無断欠席もなく第2回「学内留学」が始まった。

この日は学校説明会の日でもあり、午後からの第4限、第5限には、中学生、保護者に見学に来ていただき、廊下だけでは足りず、ベランダ側の通路も開放した。大勢の目に、さぞかし緊張もしただろうが、真摯な態度で、英語での講義を受ける生徒たちの姿は楽しげであり、また誇らしげでもあった。次回は10月31日。専攻別の受講生の感想を以下に挙げる。

> 10月10日(土)の授業スケジュール

- 9:15 All the students are supposed to meet at each classroom.
- > 9:30 ~ 10:20 1st period (Case Study 2)
- > 10:30 ~ 11:20 2nd period (Case study 2 continued)
- > 11:20 ~ 12:20 Lunch Break
- > 12:20 ~ 13:10 3rd period (Case Study 3)
- > 13:20 ~ 14:10 4th period (Case Study 3 continued)
- > 14:20 ~ 15:10 5th period (Begin to prepare for the presentations)

教育学

1年7組 H.T

前回(第1回)の講義内容

人は、視覚や聴覚、体を動かすこと、触れること等の諸感覚のうち特に優れているものがそれぞれ違うため、最も強い感覚を用いた学習が効率的である。そのため授業ではなるべく様々な感覚を用いる学習をすれば、多くの生徒の理解を深めることができる。

〔1〕授業内容

1時間目 前回の復習と宿題(前日に習ったことが授業ではどのようにとりいれているのかをスピーチにまとめて発表)

2時間目 グループをつくり、英語で説明された難しい単語(各グループ3個ずつ)を読んだあと、それらをかみ砕いて説明出来るようにした。他のグループの人とそれぞれの単語を共有し、分かった単語で絵を書いて表現するという理科の授業を再現した。

3時間目 2時間目の授業内容に、どのように第1回目の学習内容が活かされているのかを考えた。多重知能(人の知能の特性はそれぞれ八つに分けることが出来る、という考え方)についての講義を受けた。

4時間目 多重知能についての講義について生徒で再度まとめ、国語の小説読解を例に挙げて八つそれぞれの知能に適した学習は何か、を考えた。

5時間目 3、4時間目の内容の総括。グループごとに多重知能を使った国語の講義の内容を考え、それによりどんな効果が期待できるかを考えて、他のグループと共有した。

〔2〕感想

今回は2回目の学内留学だったので、より授業に集中して聞くことが出来、また理解することもできました。その中で、感じたことが3つあります。

1つ目は、英語で勉強するのは日本語で勉強するより良い点がある、ということです。今まで、英語圏の人が提案した考え方は、日本人である僕には日本語でしか知る

ことができませんでしたが、英語を英語で説明し、日本語でなく英語のまま講義を聞く機会を通して、日本語では説明しにくいニュアンスをそのまま受け取れたので、日本語で理解するよりもより理解できたのではないかと思います。

2つ目は、学内留学を通して普段の授業では学べない多重知能について教わったので、いつもの授業で生徒が理解しやすくなるように、先生方が意識されていたのかなと思うことがいくつか発見出来たことです。今までただ知識を頭に入れる為に受けていた授業を違った視点で見つめ直していきたいと思いました。

最後に、今まで教育学のイメージはあまりハッキリしていませんでした。今回の講義で、教育学は単に教え方のスキルを教わるだけではなく、科学的なアプローチもあるのだと知り興味を持ったので、これからの自分の進路について考える為の材料にしたいと思いました。

法学

1年1組 Y.W

一時間目ではまず、前回何を学んだかを確認しました。次に、様々な過去の事件に対して、自分たちならどう判決を下すかという前回の宿題を、それぞれ班に分かれて発表しました。自分たちで罪の重さを考え、刑罰まで決めるのは難しかったです。二時間目でははじめに、体罰について話し合いました。ほとんどの生徒が体罰は犯罪ではないと考えていることに驚きました。その後次に次の時間で扱う事件の重要語句の確認をして、お昼を迎えました。お昼を終えて三時間目には、安楽死について実際にカナダで起きた父が娘を殺すという悲しい事件を通して話し合いました。安楽死については、賛成の意見が多くみられましたが、医師や家族の決断に任せるといった声も多かったです。四時間目では、死刑についての意見交換を行いました。反対の生徒も多く、どちらの生徒の意見も正しく思えて、本当に難しい問題なのだということを改めて実感しました。五時間目では、様々な運転中の不注意について学びました。食べながらやよそ見をしながらの運転などは、厳しく注意したり罰したりすることが、なかなかできないので悲惨な事故が多く起きるのだと思いました。また、四、五年前のアメリカでは法の力が弱く、運転手の前方不注意で人を殺しても、二十万円の罰金と二百日間の奉仕活動という罰しか与えられなかったということにとっても驚きました。今回の授業では、ほかの生徒との意見交換の場が多く設けられており、自分の考えの再確認や、同級生の考えを知ることができて、とてもよかったです。すべての意見を英語で言うのも新鮮でためになったと思います。

経営学

1年7組 F.K

10月10日に実施された第二回学内留学(Business)の感想です。一時間目は、前回出された一つ目の宿題(カメラについての英字新聞の記事を読み、各社の製品の違いを比較する)について、まず隣に座っている人と解答を共有し、次にクラスを4つに分けて、グループで解答を共有しました。そして次に、前回の授業で準備していた、自分が持っている製品についてのスピーチを行いました。前回発表していない人5人ほどが、ルーズリーフ4分の1ほどの大きさでキーワードのみが記されたカードを何枚か用意して一人ずつ教壇に立ち、順に説明していく形が取られました。一人の発表が終わるたびに、主に聴衆とのアイコンタクトの重要性について、ランス先生が説明しました。二時間目はそのスピーチの後に、前回出されていた2つ目の宿題(ランドセルについての英字新聞の記事を読み、各社の製品の違いを比較する)の解答を隣の人と

共有しました。これは第三回の学内留学への宿題の説明で、その二つ目の宿題の題材を参考にして、3人グループでの発表のメンバーと班ごとに違う題決めを行いました。(僕の班は、ランドセルの代わりにMP3プレイヤーについて調べ、三社の製品の比較をパワーポイントにまとめる。)もう一つの宿題は、子供のシリアルのおまけに付いてくるおもちゃについて考え、概要をパワーポイントにまとめるというものです。

昼休憩を挟み、3時間目にも1、2時間目と同様にスピーチを5人ほどがおこなってから、Business Environment について説明が続きしました。

4時間目は、前回出されていた3つ目の宿題(小型自動車についての英字新聞を読み、政府、環境、対象についてまとめる)の解答共有と、第三回の学内留学への3つ目の宿題(僕の班はアイルランドのマクドナルドについての文章を読み、Business EnvironmentとStakeholderをまとめる。この文章は班によって違う。)で使うと思われる例文的なものの説明がありました。

心理学

1年2組 I.A

今回で2回目となった学内留学だが、やはり大変に感じた。1時間目は前回の宿題の解説をし、2~4時間目は新しいことを学び、5時間目はプレゼンテーションについての説明があった。この時間割はなかなかハードであり、理解に苦しむ場面もあったが、無事終えることができよかったと思う。

私は心理学を学んでいる。私が最も記憶に残っていることは、classical conditioningの実験である。顔に向けてストローで息を吹きかけると、目をつむることを利用する。被験者に息を何度も吹きかけてそれと同時にベルを鳴らし、その後ベルだけを鳴らし、息を吹きかけなくても被験者は目をつむるという実験だ。これは人間はある異なったものを結び付けて脳に記憶させると、そのうちのどれかを無くしても、それ以外を見せるとその無くなったものを連想させるという心理を表している。私はこの実験で、人間の脳と心理についてさらに興味を持った。

北野の授業は英語も内容も難しいが、新たな知識を学べることはとてもいいことだと思う。これからの学内留学も頑張っていきたい。

